

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

東アジア近世の地域をつなぐ関係と媒介者

Inter-regional relations and mediators in early modern East Asia

2. 研究代表者氏名

岩井茂樹

Iwai Shigeki

3. 研究期間

2014 年 04 月 - 2017 年 03 月 (2 年度目)

4. 研究目的

近年の中国の経済的・政治的抬頭は、東アジアのみならず世界秩序全体の構造変化を促す大きな要因である。これにともない、過去の東アジアにおける諸国家および諸地域間の関係と秩序がどのようなものであり、それをいかに評価すべきかという問題に歴史学は大きな関心を寄せるようになった。19 世紀中葉まで、中国の「天朝の秩序論理」が地域間関係が具体的に形成されるうえでさまざまな影響を及ぼすと同時に、地域間の物流に依存する個人や集団が政治外交の担い手とは異なった固有の利害状況にもとづいて、秩序形成に関与してきた。国家の立場から表出される政治外交的な利害と、地域間媒介者の立場から表出される個別的・私的な利害との間の対立や協調に着目することによって、地域のあいだに結ばれる関係の形成過程と、そこにはたらく論理とについて理解を深めることを、この共同研究の目的とする。

China has experienced a rapid rise both in the economic and political spheres. This rise is one of the main factors contributing to the change in the structure of world order. Recently, historians have been focusing on analyzing various issues related to the past international and inter-regional relations and world order in East Asia. Before the era of opening ports and treaties, China entertained an idea of an extremely self-centric world order, and forced neighbouring nations to concede the superiority of the Celestial Empire of China. At the same time, persons or groups engaged in inter-regional trade acted according to their own desires and interests, which were different from political and diplomatic matters. They sometimes participated in the process of inter-regional order formation. In other words, the sovereigns and vassals expressed their political and

formal interests, while private mediators in inter-regional relations acted according to theirs. This project tries to identify the moments of confrontation and conciliation between political ideas and economic strategies, and to shed light on the dynamics of inter-regional order formation processes in early modern East Asia.

5. 本年度の研究実施状況

2015年4月から2016年1月の間、課題についての研究報告をおこなう研究会を計12回開催した。このほか、研究班のサブグループによる『道咸宦海見聞録』の会読をおこなった（計13回）。これは19世紀に翰林官および地方官僚を歴任した張集馨（1800年～1879年）が遺した自編年譜および日記からなる史料である。会読にさいしては電子テキストを作成し、その校訂作業を併せておこなっている。

7. 本年度の研究実施内容

2015-04-03

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 城地 孝 非常勤研究員・非常勤
発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員・非常勤

2015-04-14

築城與拆城：近世中國通商口岸城市成長擴張的模式與特徴 発表者 劉石吉 台湾中央研究院近代史研究所・非常勤

2015-04-20

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 宋 宇航 文学研究科 DC
発表者 凌 鵬 文学研究科 DC

2015-05-11

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 城地 孝 非常勤研究員・非常勤
発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員・非常勤・非常勤

2015-05-12 日宋貿易を支える信用システム

発表者 李怡文 イェール大学大学院 DC

2015-05-25

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 凌鵬 文学研究科 DC
発表者 宋宇航 文学研究科 DC

2015-05-26

清初の推官及びその廃止－重ねて地方行政職能の再調整を論じる 発表者 項巧鋒 文学研究科研修員

2015-06-08

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 城地孝 非常勤研究員
発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員

2015-06-22

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 宋宇航 文学研究科DC
発表者 凌鵬 文学研究科DC

2015-06-23

舶主王直功罪考（後編）：胡宗憲の日本招撫計画 発表者 山崎岳

2015-06-30

第二次日本遠征後の元・麗・日関係外交文書について 発表者 山崎岳

2015-07-06

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 城地考 非常勤研究員
発表者 望月直人 現代中国センター産学連携研究員

2015-09-20

日本の君主號問題からみた天下の秩序 発表者 岩井茂樹

2015-09-28

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 宋宇航 文学研究科DC
発表者 凌鵬 文学研究科DC

2015-10-13

嘉靖六年年末の内殿儀礼改定：中国明代における専制君主と政策決定の正当性 発表者
岩本真利絵 文学研究科DC

2015-10-26

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 城地考 非常勤研究員
発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員

2015-11-09

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 岩本真利絵 文学研究科DC

2015-11-12

一七五一年、南部藩漂流商船をめぐる清日間の往復咨文とその和解 発表者 岩井茂樹

2015-11-24

明代正統末期・景泰期・天順期における内閣の性格 発表者 宋宇航 文学研究科DC

2015-11-30

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 宋宇航 文学研究科DC
発表者 凌鵬 文学研究科DC

2015-12-08

押佃、租穀と商品経済：清代巴県農租佃関係の一側面について 発表者 凌鵬 文学研究科DC

2015-12-14

会読：張集馨著『道咸宦海見聞録』 発表者 城地孝 非常勤研究員
発表者 望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員

2016-01-12

保商局の越境：清末雲南・ビルマ辺境における社会変動と国際関係に関する一考察 発表者
望月直人 現代中国研究センター産学連携研究員

2016-01-26

清初の六部衙門における漢人官僚の存在形態：雍正初年の科道官奏摺を手掛かりに 発表者
小野達哉 文学研究科教務補佐員

8. 共同研究会に関連した公表実績

とくになし。

10. 共同利用・共同研究の参加状況

| 区分 | 機関数 | 参加人数 | | | | 延べ人数 | | | |
|---------------|-----|-----------|-----|------|-------|-------------|-----|------|-------|
| | | 総計 | 外国人 | 大学院生 | 若手研究者 | 総計 | 外国人 | 大学院生 | 若手研究者 |
| 所内 | 1 | 7 (1) | 1 | | 4 | 147 (8) | 2 | | 64 |
| 学内(法人内) | 1 | 7 (2) | 6 | 6 | | 114 (24) | 109 | 111 | |
| 国立大学 | 5 | 6 (1) | | | 3 | 58 (7) | | | 7 |
| 公立大学 | | | | | | | | | |
| 私立大学 | 3 | 3 | | | 1 | 54 | | | 6 |
| 大学共同利用機関法人 | | | | | | | | | |
| 独立行政法人等公的研究機関 | | | | | | | | | |
| 民間機関 | | | | | | | | | |
| 外国機関 | 2 | 3 (1) | 3 | 1 | 1 | 20 (18) | 20 | 18 | |
| その他 | | | | | | | | | |
| 計 | 12 | 26 (5) | 10 | 7 | 9 | 393 (57) | 131 | 129 | 77 |

※ () 内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

| | |
|----------------|---|
| 総論文数 | 2 |
| 国際学術誌に掲載された論文数 | 0 |

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

14. 次年度の経費

| | | | |
|------------------------|--------|------------------------------|------------------|
| 国内旅費 | 研究会参加費 | 開催回数 33 回 国内出張旅費（延べ 25 人） | 支出予定額 470,000（円） |
| | 一般旅費 | 国内出張旅費（延べ 人） | 支出予定額（円） |
| 海外旅費 | 渡航旅費 | 海外出張旅費（延べ 人） | 支出予定額（円） |
| | 招聘旅費 | 招待人数（延べ 0 人） | 支出予定額（円） |
| 謝金（講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金） | | | 支出予定額（100,000 円） |
| 消耗品等経費 | | | 支出予定額（円） |
| その他 | | | 支出予定額（30,000 円） |
| 合計 | | | 600,000 円 |

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究期間終了後に研究成果の公開をおこなう。成果 1 張集馨『道咸官海見聞録』の電子テキストを Web 上に公開する。成果 2 研究班員による研究の成果を『東方学報』その他の学術誌に掲載する。